

学校だより

さくらっ子

四日市市立桜小学校

平成 30 年 9 月 20 日

第 17 号



全国学力・学習状況調査の結果から②



今号では、4月に6年生に対して行われた「児童質問紙」と、学校に対して行われた「学校質問紙」の結果から、さくらっ子の特徴（学習面・生活面）や本校の学校教育の取り組みの「強み・弱み」についてまとめます。

【児童の学習や生活の状況について～「児童質問紙」の結果より～】

① 学習面

- 「学校で好きな授業がありますか」の問いには、全員が肯定的な回答をしています。「算数、理科などの教科が好き」と答える児童が、全国平均より多くなっています。
- 話し合い活動が好きな児童が多く、「友だちの話や意見を最後まで聞くことができますか」の問いに対して全員が肯定的な回答をしました。
- 「5年生までに受けた授業では振り返る活動を行っていましたか」「授業で学んだことを他の学習や普段の生活に生かしていますか」の問いには、全国平均よりもかなり多くの児童が肯定的な回答をしました。実際の授業においても、振り返りの中でさらなる疑問や身近な生活とつなげて気づいたことを書く児童が多く見られます。
- 「400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか」との問いに、肯定的な回答は半数以上あるものの、苦手意識を持っている児童がまだ多いようです。

② 生活面

- 「学校で友だちに会うのは楽しいと思いますか」の問いには、全員が肯定的な回答をしています。相手を受けとめ、認め合う関係が広がるように仲間づくりを進めます。
- 「自分にはよいところがあると思いますか」「将来の夢や目標を持っていますか」に対する肯定的な回答は、全国平均よりも下回りました。自分に自信が持てず、周りに流されやすいというさくらっ子の課題が見られます。
- 「ゲームをする時間」について、「2時間以下」と回答した割合が全国平均よりも高くなっていますが、「4時間以上」という児童も見られ、依存性が心配されます。ゲームやネットの利用については、親子でよく話し合い、約束事を決めるなどして、生活リズムや心身の健康を乱すことがないように注意することが必要です。



【学校教育の取り組みについて～「学校質問紙」の結果より～】

① 強み

- 「課題」で始まり、「振り返り」で終わるという授業構成について教職員間で研修を深めて、「子どもに分かりやすい授業」を実践するように努めています。
- 児童の規範意識が、全国・県基準より上です。当たり前のことを徹底する「梵字徹底」を合言葉に、教職員が共通理解のもと一丸となって指導に取り組む姿が効果をあげているものと考えます。

② 弱み

- 話し合い活動を大切にしていますが、「自分の考えを相手にしっかり伝える」ことに苦手意識を感じている児童が見られます。日常の授業の中で行う「話し合い活動」の質を高め、異なる意見も安心して出し合える雰囲気づくりに努めます。
- 多くの児童が宿題を忘れずに提出できますが、「10分×学年」の家庭学習が定着しておらず、授業の復習など自主的な課題に意欲的に取り組んでいる児童が限られています。家庭学習の成果を実感できるような評価・励ましを行い、やる気を促進します。



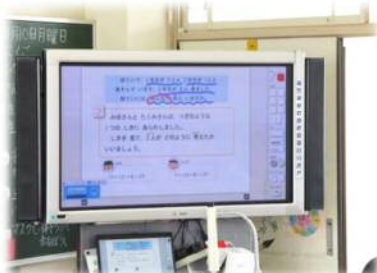
桜小学校の先生たちの校内研修会

管理職だけでなく、他のクラスの先生方がたくさん教室に入ってきて、授業を見ていくことがあります。ときには、学校では見かけない教育委員会の先生がいることもあります。

その時間は、「研究授業」といいます。先生たちが実際の授業を見合って、よりよい指導のあり方を学び合うために行っています。見られている児童の皆さんはちょっと緊張するかもしれませんが、先生たちにとって、とても大切な「学びの場」なのです。



授業の流れがわかりやすい板書



視聴覚教材の活用



思考の助けになる具体物の活用



お隣さんとペア学習



班の形でグループ学習



ホワイトボードを使って発表



クラス全体で話し合い



活動後のふりかえり



ふりかえり～書く活動～



視聴覚室での事後研修会（全体）



校長室での事後研修会（学年部）



本校では、『主体的・対話的で深い学びをめざして』を研修主題として、ユニバーサル・デザインの視点を入れた授業づくりを推進しています。子どもの興味・関心・意欲を高め、他者との対話により自分の考えを広める子の育成を図ります。

研究授業を参観した日の放課後には、事後研修会を開き、その日の授業や日頃の指導などについて意見交流をします。



ヒガンバナの赤が鮮やかな道を学校に向かう子ども達
今日は何があるかな!!